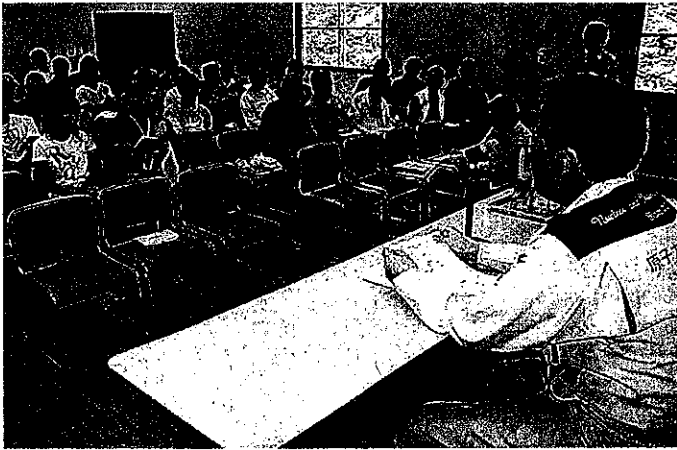


避難区域外の伊達市霊山・石田



対象地区の住民に対して開かれた説明会  
＝5日、伊達市・霊山こどもの村

残る住民不安晴れず

44世帯約160人が住む対象地区。隣接する飯館村は計画的避難区域に指定されたが、大部分の年間放射線量が20ミリシーベルトを超えると推定された同村とは異なり、線量が高いのはあくまで同市の一部であることなどから、同避難区域には指定されていない。政府は、計測ごとに積算放射線量が変動することなどを理由に同避難区域の指定には慎重な姿勢を示している。

政府は同市霊山町で11、12の両日、主要道路や宅地、土壌など約600カ所での放射線量を測定するなどして

対応するが、地区住民が生活する上での具体的な対策は示されていない。同市では、霊山町上小国地区でも指定基準の年間20ミリシーベルトを超えると文部科学省が発表している。

同市が独自に行う、対象地区の希望者の避難では、同日までに14世帯47人が避難する意向を示している。

説明会は、対象地区の住民が要望し市が企画した。地元に残るとする市民ら約50人が出席。同本部は、放射線量の推移やモニタリングの方法、同避難区域指定の考

高線量の対策

国示とずく不満

説明会で質問浴びせ

「いかに残るための対策を教えてください」。積算放射線量の年間予測が計画的避難区域指定基準の20ミリシーベルトを超えると推定されたが、同区域には指定されていない伊達市霊山町石田の一部地区住民への、政府の原子力災害現地対策本部の説明会は5日、同市の霊山こどもの村で開かれた。本部の職員がモニタリングの結果や計画的避難区域の条件について説明したが、参加者の大半は対象地域に「残る」と決めた住民たち。残るための具体策が示されない説明に、住民からは不安と不満の声が相次いだ。



「残るための対策を」と現地対策本部の職員に説明を求める参加者

え方、校庭の表土除去の財政的支援などについて説明したが、住民からは「ここで生活できるように国が何をしてくれるのか教えてください」と、対象地区の放射線量を低くするための対応を求める声が上がった。

これに対し担当者は、既に発表している放射線の測定などの説明に終始し、具体的な対策は示さなかった。参加した建設業の田代隆明さん(37)は、「残るため政府の対策を聞けると期待してきた。来る必要がない」と説明。保科

松本氏は「これから暑く雨も多くなる時期。2泊3日も温泉旅館などに行っ体を休めてほしい。費用は国がみる」と説明。保科

住民に二次避難要請

防災相、菅原文太さん同行

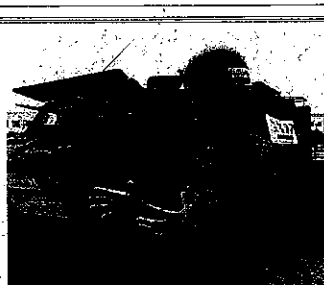
浪江、南相馬の被災者訪問

松本龍防炎担当相は5日、東京電力福島第一原発事故で浪江町や南相馬市から宮城県丸森町の廃校に避難している住民らを訪問し、環境の良いホテルや温泉旅館などへ二次避難するよう要請した。



宮城・丸森

陸自隊長振り返る



福島第1原発3号機の酸素爆発に遭遇した陸上自衛隊中央特殊武器防護隊長の岩熊真司1等陸佐  
＝5日、郡山市・陸自郡山駐屯地

水素爆発時の風、視界灰色

3月14日午前11時1分。岩熊隊長ら6人が車両3台で3号機に到着し、給水を開始するため隊長が小型四輪駆動車のドアを開けようとした瞬間。「ドーン」。重低音が響き、経験したことのない爆風が襲った。フロントガラスから見える視界は一面灰色に。上空からは次々とコンクリート片が車両にも降り注いだ。

岩熊隊長は「がれきが落ちてきたのは数十秒後だと思うが、非常に長く感じた」と述べた。

何とか車外にはい出ると、足を引きずったり、自分の腕を押さえたりする隊員らの

男性はねられ死亡

新地・身元死因調べる

5日午後8時5分ごろ、新地町駒ヶ嶺字荒屋敷の国道6号で、道路を歩いていた男性が宮城県亘理町字西郷244、パート従業員島山洋子さん(53)の乗用車にはねられた。男性は南相馬市の病院に運ばれたが、約1時間後に死亡した。相馬署は男性の身元や死因などを調べている。

同居によると、男性は身長約164センチ、坊主頭で緑色の半袖ポロシャツに紺色のスラックス、黒のスニーカーを履いていた。現場は見通しのいい直線道路。